（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	さわやか愛の家さいだいじ弐番館			
○保護者評価実施期間	2026年　10月　12日	～	2026年10月9日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	27人	（回答者数）	25人
○従業者評価実施期間	2026年　10月　26日	～	2026年　10月　28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5人	（回答者数）	5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　10月　28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・学校や各関係機関との連携	・支援計画更新時には必ず学校面談を行い、擦り合わせを行っています。特に学習支援の方法については担任の先生と打ち合わせをしており、有効な支援方法や宿題の質と量についても検討し、一人ひとりが無理なく学習を進められるように支援しています。	・進学についてのお悩みや移行先の相談など、長期目線での支援を今後行って参ります。 将来のイメージをご本人、保護者の方と一緒に考え、同じ方向に向けて進んでいけるように、その場だけの支援でなく将来を見据えた支援を行って参ります。
2	・子どもや保護者の満足度	・今年は保護者やご家族、ご兄弟・地域の方が参加できるようなイベントを実施しています。開かれた事業所、気軽に立ち寄れる事業所になれるよう職員一同、積極的にお声掛けさせて頂いています。	・イベント時には早めの告知に心掛け、お一人でも多くの関係者の方が参加して頂けるように努めて参ります。11月28日土曜日には、岡山県の事業所で地域の方を交えたイベントを行います。
3	・活動プログラムのブラッシュアップ	・集団療育では５領域の要素を取り入れて内容を企画しています。実施後は振り返りをして、改善・調整を行っています。また、子ども達一人ひとりの興味関心に合わせた支援や個別療育、小グループ、年代に合わせた療育、自立支援などにも力を入れています。	・高学年のお子様が興味を得ることができる活動を考えていきます。遊びながら学べる環境を設定したり、将来に向けての自立活動など、保護者の方とも共有しながら支援をおこなって参ります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・屋外の遊び場がない	・来館後に外に出て体を動かすスペースがない。感覚・運動の部分で、思い切り身体を動かす機会が放課後にできていない。	・子ども達が早く帰ってくる時や祝日には、なるべく戸外や大きなホールで体を動かして遊んだり、自然に触れたりなど季節に合った活動を取り入れていきます。
2	・事業所のスペースが狭い	・体を動かして遊べるスペースや個人学習スペースが少ないことです。	・子どもたちの状況に合わせて事務室を開放し、体を動かしたり、学習したりするスペースを確保しています。さらに、パーテーションを活用することで、個別で集中できる環境も作っています。
3	・地域の学童保育や児童館などの交流不足	・放課後利用時には、地域の学童保育や児童館へ出かけることが難しいです。	・祝日や長期休みには、地域の公共施設への外出を積極的に行って参ります。久保東児童館のイベントでは地域の小学生の方との交流もありました。機会があれば参加しています。